

Abstract :

(東邦大・高田英行氏との共同研究)

本研究では、Brody-Hughston-Macrina(2010)が単一債務者のデフォルトリスク評価のために提案した「情報アプローチ」に基づくモデルを、複数の債務者向けに拡張し、特に相互依存関係がある2つの企業(債務者)が発行する割引債価格の挙動分析に応用した。具体的には、その拡張モデルの下で、デフォルト時回収率ゼロの割引債の価格過程が満たす確率微分方程式を導出し、相手方の債務者がデフォルトするリスクがどのように当該債務者の債券価格の挙動に影響するかを詳しく考察した。

参考論文 :

Hidetoshi Nakagawa and Hideyuki Takada, "A default contagion model for pricing defaultable bonds from an information based perspective," FS-2020-E-001, HUB FS Working paper series

<https://www.fs.hub.hit-u.ac.jp/inc/files/staff-research/workingpaper/FS-2020-E-001.pdf>